

第1回浜松市ユニバーサルデザイン審議会会議録

日 時：令和4年6月27日（月） 午後3時～4時40分

会 場：浜松市役所本庁8階 第3委員会室

出席委員：宮田圭介会長、松井章子副会長、石塚良明委員、倉橋千弘委員、
田中佐和子委員、村松千香子委員、諸井宏司委員、横田みどり委員、
吉林久委員

欠席委員：飯野ホラン委員

事務局：奥家章夫市民部長、河合多恵子UD・男女共同参画課長、鈴木大祐課長
補佐、森下昌和UD推進グループ長、鈴木政彰、刑部勇人

傍聴者：1名（報道関係者）

会議録作成者：UD・男女共同参画課 刑部

記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：無）

《会議次第》

- 1 開 会
- 2 部長あいさつ
- 3 職員紹介
- 4 会長あいさつ
- 5 議 事
 - (1) 令和3年度主要事業実績について
 - (2) 令和4年度主要事業計画について
- 6 その他
- 7 閉 会

《配付資料》

- ・資 料 1：令和3年度主要事業実績
- ・資 料 2：令和4年度主要事業計画
- ・資 料 3：事業所におけるUD啓発のための調査研究について
- ・資 料 4：バーチャル空間アクト通りマップ

《会議の経過》

1 開会

（事務局）

令和4年度第1回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開催する。

当審議会は、浜松市ユニバーサルデザイン条例第18条に基づき、浜松市のユニ

バーサルデザインの推進に関する調査、協議及び評価をする組織として設置されているものである。

本日は、飯野委員が都合により欠席である。

2 部長あいさつ

奥家市民部長挨拶

3 職員紹介

河合UD・男女共同参画課課長及び鈴木UD・男女共同参画課課長補佐の紹介

4 会長あいさつ

宮田会長挨拶

5 議事

(事務局)

当審議会は、浜松市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき、公開会議とする。また、会議録は事務局で作成し、浜松市附属機関等の会議録の作成及び公開に関する要綱に基づき、発言した委員の名前を記載の上、公開とする。

議事の進行については、浜松市ユニバーサルデザイン審議会運営要綱第4条の規定により、議長は会長が務めるとされているため、会長にお願いする。

(1) 令和3年度主要事業実績について

事務局より

(資料1) 令和3年度主要事業実績について説明

(宮田会長)

事務局からの説明について、質問、意見があればお願いしたい。

(吉林委員)

ピクトグラム選手権について、前年度と比べ応募作品が増えているのか、また、応募者が固定化しているのかどうかを聞きたい。応募者が固定化してしまうのではなく、裾野が広がっていくことはとても良いことだと思うが、裾野が広がっているのかどうか、決まった学校からの応募者が多いのかどうかを聞きたい。

(事務局)

令和2年度の応募数は、小学生1,265点、中学生522点の合計1,787点。令和3年度は、小学生1,915点、中学生239点の合計2,154点であった。中学生の部では、応募数が減っているが、美術部など部活動で多数取り組まれたようである。小学生の部では、令和2年度より多くの学校から応募があった。

(吉林委員)

応募数は一つのバロメーターだと思う。その中身を分析することで、今後の対応が変わってくると考える。

(松井委員)

UD提案事業の「やさしい日本語グローバルコミュニケーションを楽しもう！」について、翻訳アプリを使いながら外国人と日本人が共同で絵日記を作成したということで、とてもよい交流であったと思うが、参加者49人のうち、外国人と日本人の内訳を教えてください。

(事務局)

フィリピン人親子が多く参加し、日本人参加者は十数名であった。

(松井委員)

参加者には、受託者の特定非営利活動法人フィリピンナガイサの関係者が多いと想定されるが、交流を深めるには、一般の方が多く参加できれば有意義なものになると思う。

(田中委員)

企業UDの出前講座について、実施件数に対して受講人数が大きく、効果が見込める事業であると感じた。講師の確保や窓口をどこにするのかが課題であるが、持続可能な事業にしてもらいたい。小中学校では、地域の方が多く参画するコミュニティスクール(CS)を実施しているが、どのように講師人材を確保していくか、講師が持続可能に関わっていただけるかが課題である。出前講座をしていくには、大きな企業や幅広く参画してもらえそうな研究を含めて取り組んでもらいたい。

(事務局)

UD学習支援事業は、第2次計画の2期推進計画で力を入れて取り組んできた。事業実施の受講人数の推移をみると、平成28年度比でUD出前講座は横ばい、施設見学が若干の減に比べ、企業のUD講座は37%の増となっている。また、UD出前講座や施設見学は、少し新鮮さがなくなっているかなと感じているところもある。

るが、企業のUD講座は、企業の新しい考えにより、常に新鮮さがあるものと受け止めている。学校が求めるものに、どれだけ対応できるかが課題であると考えている。企業のUD推進を図る中、企業との連携を図っていきたいと考える。

(宮田会長)

本件について承認する。

(2) 令和4年度主要事業計画について

事務局より

(資料2) 令和4年度主要事業計画について説明

(宮田会長)

事務局からの説明について、質問、意見があればお願いしたい。

(村松委員)

UD提案事業について、2団体からあった提案事業は採択となったのか。もし公表していただけるようなら、内容によっては、はままつ子育てネットワークびっぴで広報等に協力できる。

(事務局)

応募があったところで、これから審査していく。採択となるまでは団体名等は公表できない。

(村松委員)

採択後、団体名や事業内容等はどこで公表するのか。

(事務局)

広報はままつに掲載したり、各団体でチラシを作成し、協働センターにおいて配架したりするので、広報等にご協力いただければありがたい。

(村松委員)

令和3年度のUDトークの利活用が12件であり、この件数が全体の相談件数に対して多いのか、少ないのか、利用が少なかった場合の理由を教えてください。また、窓口でコロナ感染によって使いづらい点を改善するために、今年度マイクを購入したのか。

(事務局)

コロナの影響で窓口を訪れる市民が少なくなった。利用者自らが必要とするコミュニケーション支援を選択できるように、選択性を重んじている。

昨年度、各区役所を回り、利用状況を確認した。UDトークは文字変換の誤変換が多いと窓口職員から聞いている。外国人の場合、遠隔であるが外国人通訳者と直接話せる方が使い勝手がいいようで、件数に表れている。また、自分で使いやすいアプリを持ってきて、利用しているケースもあったようだ。

(諸井委員)

学習支援事業は小学生中心の事業となり、大人になるまでUDの心を持ち続けられるのかが気になる。例えば、高校生に対して、世の中に役立つものを作っていることが紹介できて事業者のイメージも上がれば、就職に結びつき、企業側としてもメリットがあると思う。社会に出る前に、UDに対する意識付けが持てるとよいかと思う。

(事務局)

第1次UD計画では、主にハード系の整備に取り組み、第2次計画では、ハードでは補いきれない部分をハートで補う「心のユニバーサルデザイン」を進めてきた。これまで、小学生（小さい頃）から、心のユニバーサルデザインを大切にしようということで、特にUD学習支援事業を重点的に取り組んできた。

第3次UD計画の中では、もう少し周知の視点を変えていきたいと考える。多様性に富み、活力ある持続可能な社会の根本にはUDがあり、その中では企業がどのようなことに取り組めば、UDにつながり、企業側のメリットになるのか（高校生等への周知を含め）検討していきたい。

(吉林委員)

学校教育と社会に出た時の溝を埋めるという意味では、企業のUD出前講座はとても大事であると着目している。10社による講座を掲載しているが、企業でいうと、浜松を代表するような自動車産業や医療関係があるとよいかと思う。

(倉橋委員)

身体障害者福祉協議会では、障がい者にとって勉強になる施設見学先として、アンサンブル江之島、友愛のさと、八幡駅周辺に行こうと考えているが、どの施設を見たらよいか教えてほしい。

(事務局)

一番UDに特化しているのは、アクト通りになるかと思う。

(田中委員)

企業のUD出前講座の募集はどのように周知しているのか。

(事務局)

学校用掲示板「ミライム」に3月末に掲載している。他にもすべてのUD講座、啓発資料も一緒に掲載している。

(田中委員)

年度末だと教職員の異動があるため、4月にもう一度周知していただくなどアナウンスの強化もはかっていただきたい。申込件数が増えると、それに対して企業が増えていくといったような連動も期待できる。高校への啓発もあると、UDがさらに広がっていく。

(事務局)

教育委員会での人材や講座を登録する「はままつ人づくりネットワークセンター」にもUD講座を掲載している。高校や一般に対して、啓発に力を入れていきたい。

(石塚委員)

企業が協力して講座を実施していることは、とても良いことである。他の企業もやらなければというような雰囲気が出てくるとよいかなと思う。

事業全体として、事業をうまく組み合わせ、例えば、ユニバーサルデザイン週間で特徴的な取組を積極的に紹介するなど、効果的な発信をしていただき、さらに楽しさを加え組み合わせることで、新しい取組を楽しく学ぶことができるようになるとういかなと感じた。

(横田委員)

関係ない話になるが、1か月半ほど前、県外の車いすを利用する知り合いが訪ねてきた。浜松駅近くのホテルで食事をする事になり、動線をどう案内するかを考えた。途中に2、3段の階段があり、動線がつながっておらず、車いすでは降りられないことがわかった。実際に自分が足を運んでみると、見えなかったものが見えるようになることを知った。他にも、宿泊ホテルへの道中、道が狭く危なく感じる場所もあり、色々と考えさせられた。

(宮田会長)

本件について承認する。

6 その他

- ・ 事業所におけるUD啓発のための調査研究について
- ・ バーチャル空間UD体験学習について

事務局より

(資料3) 事業所におけるUD啓発のための調査研究について
を説明

(資料4) バーチャル空間アクト通りマップ
を説明し、デモンストレーションを実施

7 閉会